

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における幸田町児童生徒の結果について

令和7年12月

## 1 調査の概要（令和7年度実施分）

- (1) 調査期日 令和7年4月17日（木）
- (2) 対象学年・人数 小学校6年 468名、中学校3年 477名 ※悉皆方式
- (3) 調査項目
  - ① 教科 小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科
  - ② 学習・生活習慣等の状況調査（質問による）

## 2 幸田町全体の傾向について

### (1) 教科の状況

本町児童生徒の傾向について、全国と比較をしました。

#### （全体の結果概要：小学校）

国語、算数、理科とも全国とほぼ変わりません。

#### （全体の結果概要：中学校）

国語については、全国とほぼ変わりません。数学、理科については、全国よりよくできています。

#### （中学校3年生生徒が小学校6年生であったときの比較）

現中学校3年生が小学校6年生であった令和4年度と比較しました。

小学校6年生であったときは、国語においては「書くこと」、算数においては「変化と関係」が努力を要する状況でした。また、理科においては、「粒子」を柱とする領域が努力を要する状況でした。

その児童が中学校3年生となった今年度、国語においては「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とも全国とほぼ同等となっています。数学においては「数と式」「関数」「データの活用」がよくできており、それ以外の内容もできている状況でした。また、理科においては、「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする3領域においてよくできている状況でした。

小学校・中学校を通じて、子どもが力を伸ばしたことがわかりました。

#### （各教科の学習領域での結果）

全国の状況と比較し、各教科の学習内容で、「よくできていた内容」「課題がある内容」の主な内容を示します。

◎ たいへんよくできている内容 △ 努力を必要とする内容

### 【小学校6年生】

国語	◎目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。 ◎時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 △目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
----	---

算 数	<p>◎示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。</p> <p>◎伴って変わる2つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の求め方を式や言葉を用いて記述することができる。</p> <p>△数直線上の目盛から分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。</p>
理 科	<p>◎温度によって水の状態が変化するという知識を基に、自然事象について概念的に理解し、説明することができる。</p> <p>◎水のしみ込み方の違いについて、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。</p> <p>△既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができる。</p>

### 【中学校3年生】

国 語	<p>◎事象や行為を表す語彙について理解している。</p> <p>◎読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。</p> <p>△自分の考えが伝わる文書になるように、根拠を明確にして書くことができる。</p>
数 学	<p>◎数量を文字を用いた式で表すことができる。</p> <p>◎事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>◎不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。</p>
理 科	<p>◎探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現できる。</p> <p>◎考察をより確かなものに既習事項の知識及び技能を活用して、実験を計画し、予想される実験の結果を説明することができる。</p> <p>△火災における避難行動について、気体の性質の知識が概念として身に付いている。</p>

### (2) 学習・生活習慣等の状況（質問より）

学習・生活習慣（質問内容）と正答率との関係进行分析しました。質問内容に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」とする回答率の高かったものに加え、全国と比較して回答率が高かったものを対象としました。その主な内容を示します。

- |   |
|---|
| <p>○質問内容と正答率の相関関係が見られたもの</p> <p>・質問内容への回答率及び全国と比較して回答率が高かったもの</p> |
|---|

#### (小学校の学習・生活習慣等の状況と正答率について)

- 朝食を毎日食べていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
  - ・人が困っているときは、進んで助けていますか
  - ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
  - ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
  - ※よくある、ときどきある
- 理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか

(中学校の学習・生活習慣等の状況と正答率について)

- 朝食を毎日食べていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
  - ・人が困っているときは、進んで助けていますか
  - ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
  - ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※1時間以上
- ・学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンライン授業の場合も含む)
- ・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)  
※30分以上
- 読書は好きですか
  - ・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか
- 理科の勉強は得意ですか

この分析より、「本町の子どものよさ」として次のような姿が浮かんできました。

○規則正しい生活をし、相手のことを思い、人の役に立ちたいと願う子ども  
○読書をするのが好きな子ども  
○算数(数学)や理科の勉強が好きで、解き方が分からないときはいろいろな方法で試したり、学習したことが将来役に立つと意欲を高めたりしている子ども

一方で、質問内容への回答率及び全国と比較して回答率が低かったものとして、次の点が小学校と中学校に共通して明らかとなりました。

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ・小学校5年生の時に（中学校1，2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※ほぼ毎日
- ・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って次のようなことができますか  
※学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる  
※情報を整理する(図、表、グラフなどを使ってまとめることができる)
- ・小学校5年生の時に（中学校1，2年生の時に）受けた授業では、問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ・小学校5年生まで（中学校1，2年生のときに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

### 3 調査結果を受けて

この結果は、幸田町全体の傾向であり、各学校によって結果や課題は異なっています。

幸田町全体の傾向としては、「国語は好き、将来役に立つ」の質問に対して、いずれも全国より低い数値となっています。一方で「算数・数学は好き、将来役に立つ(中学校)」[理科は好き・将来役に立つ(中学校)]の質問に対して、いずれも全国より高い数値となっており、それが全国と比べた算数・数学と理科の平均正答率の高さにつながっています。今後は、学習の中でのICT機器の効果的な利活用も含めて、児童生徒が「勉強は好き、大切である」と感じられる取り組みになるように工夫することで、更なる学習意欲や学力の向上が期待できます。

幸田町教育委員会は、これまで通り、町全体の分析結果や指導改善のポイントを、文部科学省分析資料や愛知県教育委員会配付資料とあわせて各校に周知し、授業改善に活かせるようにしています。また、少人数指導や現行学習指導要領における授業力向上のための研修など、環境整備も継続して進めていきます。

同時に各学校も結果を分析しています。そして、各学校の課題を明らかにし、子どもの実態に応じた授業改善を図っています。

家庭においては、子どもの学力の状況を知るとともに、普段の生活から見通しをもった取組や前向きな生活習慣の確立を図るなど、子どもが学習に対して意欲をもって取り組むことができるような励ましをお願いします。

この調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語と算数・数学及び理科について調査したものです。この調査で測定できるのは、学力の特定的一部分です。子どもの学力や生活のすべてを表しているわけではありません。そのことを十分踏まえたうえで、調査結果を今後の指導に活かしていきたいと考えています。

問い合わせ先 幸田町教育委員会学校教育課 学校指導G  
Tel 0564-62-1111 (内線424)